

ビールを通して楽しい時間を

ベアレン醸造所の立ち上げ

ベアレン醸造所が盛岡の醸造所でビールを造り始めてから今年で16年になりました。18年前の平成13年、会社を設立した当時は地ビール業界にとっては逆風の時期でした。

規制緩和によって小規模なビール醸造所が設立可能となったのが平成6年、数年のうちには300を超えるビール会社が全国各地にオープンし、「地ビールブーム」と呼ばれ、活況を呈していました。ところが5年ほどうちにブームは去り、醸造所の数も半減してしまいます。この状況でビール会社を立ち上げるのは誰もが無謀と思う中、いつかまた小さな醸造所をつくるビールが受け入れられる日が必ず来るとの思いでスタートを切りました。私が日本でも海外のように小さな醸造所で個性的なビールが作れないかと最初に思った

のは、ビール会社に勤務し営業の仕事をしてきたところ。ベルギーやドイツ、アメリカなどのビールが日本に入ってくるようになり、その個性のある味わいに興味を持ったのがきっかけでした。調べてみるとそのようなビールは、地方の小さな醸造所が伝統的な製法で作っている、あるいは若者が起業してオリジナリティのあるビールを創作していることがわかりました。

しかし当時は酒税法の規制から小規模なビール会社は設立できない仕組みとなっていたため仕方ないこととあきらめていましたが、ほどなくして規制緩和のニュースが伝わり、これはチャンス到来と地元岩手に新しく出来た地ビール会社に転職しビール製造の現場の経験を経たのち、仲間3人でベアレン醸造所を立ち上げることとなりました。

地元の人に普段から飲んでもらうビールを

それまでの地ビール業界の動きを見て、ビールの味わいに多様性を求める人は一定数いること、ところがリピーターとして飲み続けてくれるファンを作ることが出来ていないことを感じていました。

当時の地ビールの多くは地方の特産品として東京に売り込むもの、あるいは訪れる観光客に土産として買ってもらうものという位置づけでした。ところが東京での地方のビールは47都道府県のうちの一つのものにすぎません。また、観光客もそう何度も同じところには足を運んでくれません。

そこで考えたのが、地元の人たちに普段から飲んでもらえるようなビールを造り、地域密着で売り込みを図ることで、継続してある程度の売り上げを確保するといったやり方で



株式会社ベアレン醸造所
(盛岡市)
代表取締役

木村 剛

す。これにはお手本があつて、醸造設備の入手のため訪ねたドイツでは、小さな町にも古くからの醸造所があり地元の人は皆その土地のビールを代々飲み続けていて、町のビアホールが地域の人が集まるコミュニティの中心になつていました。こんな風に地域の人に親しんでもらえるようなビールをつくりたいと平成15年にベアレンビールを発売開始しました。

発売当初は地元のビールということも多くのご注文をいただきましたが、半年ほど過ぎたころから徐々に売れ行きにかげりが見え始め、先行きに黄色信号が灯りました。地元のビールとは言つても、知名度のないものを手に取つて続けて飲んでもらうのにはまだまだ高いハードルがあつたのです。作り手の思いだけでは簡単には伝わらないということを実感することになりました。

ビールの大切な役割とは

このままではいけないと話題作りのため新商品を開発したり、バレンタインや父の日のギフトとして新たな提案をしたりと様々な取り組みをしてきました。そんな中、毎週土曜日に開かれている「材木町よ市」に出店することになったのですが、ここで今のベアレンにつながる大切な発見がありました。

最初のころは、まだなじみもなく売り上げ

はわずかででした。ところが少しずつですが毎週立ち寄つてくださる常連のお客様ができると、その知り合いの方が足を止めてビールと一緒に飲みながら話をする、またその話の輪に別の人が加わりと、徐々に人が増え始め、ここに来れば毎週誰かと会つて話ができるという雰囲気が出来あがってきました。これを見てビールの大事な役割に気が付きました。ビールを媒介に楽しい時間と場所を作り地域の人と人をつなぐ、こういう場面をたくさん

作れば自分たちのビールに親しみを持ってもらえるのではと考え、取り組みを広げました。

当社のビール工場で開催する「オクトーバーフェスト」も最初は数十名のお客さまからでしたが、次回には仲間を誘つて来てくださる方も多く、回を重ねるにしたがつて参加者が増えていきました。こうした経験から10周年を迎えた平成23年には岩手県内33市町村すべてで、地元の方と協力しビールイベントを開催することができました。

岩手と世界をつなぐビールに

今年の4月からは、これまでの盛岡の工場に加えて雫石町の新たな工場でもビールを醸造しています。ここではより手軽に岩手のビールを楽しんでもらえるよう缶ビールの生産を行っています。現在全国的にクラフトビールが注目されるようになり、また世界に目を向けても各国で新たなビール醸造所が数多く生まれる時代となりました。これからも地元のビールとして世代を超えて親しんでもらえるよう、地元の皆さんと楽しい時間をたくさん作っていききたいと考えています。また次の目標として、ビールを通して岩手を知ってもらうため、日本全国、そして世界の国々に少しずつ販路を広げていきたいと思っています。



新設した雫石工場のビール醸造設備